

宮城県商工会 地区中小企業景況調査報告書

平成28年10月～12月期

目 次

1. 県下産業全体の景況	2
(1) 主要景況項目のあらまし	2
(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし	3
(3) 今後の見通しについて	4
2. 県下産業別の景況	5
(1) 製造業の動向	5
(2) 建設業の動向	8
(3) 小売業の動向	11
(4) サービス業の動向	14

平成29年1月

宮城県商工会連合会

中小企業景況調査報告書

平成 28 年 10 月～12 月期

[調査要領]

1. 調査対象

- (1) 対象地区 宮城県内 10 商工会地区
(調査対象商工会名) 名取市、大河原町、みやぎ仙台、くろかわ、加美、
遠田、若柳金成、みやぎ北上、石巻かほく、本吉唐桑
- (2) 対象企業数 150 企業
- (3) 回答企業数 145 企業

2. 調査対象期間

平成 28 年 10 月～12 月期を対象として、調査時点は平成 28 年 11 月 15 日とした。

3. 調査方法

- (1) 商工会の経営指導員による訪問面接調査。
- (2) 対象企業の抽出は、商工会に於いて、業種・規模等有意選定。

4. 回答企業内訳

業 種	企 業 数
製 造 業	3 2
建 設 業	2 5
小 売 業	4 3
サービス業	4 5
合 計	1 4 5

5. そ の 他

本報告書中の D I とは、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目についての増加(上昇・好転)企業割合と減少(低下・悪化)企業割合の差を示すものである。

1. 県下産業全体の景況

県下商工会地区における今期(平成28年10月～12月期)の調査において、産業全体の業況D I(前年同期との比較D I、以下同じ)は、前期より△8.6ポイントの悪化で△38.0(前期△29.4)となった。産業別にみると、製造業は△46.9(前期△29.0)と△17.9ポイント悪化、建設業が△20.8(前期△12.5)と△8.3ポイント悪化、小売業では△48.8(前期△48.8)と横ばい、サービス業では△31.2(前期△20.0)と△11.2ポイント悪化した。

(1) 主要景況項目のあらまし

① 売上額(完成工事額)の状況

売上額(完成工事額)D Iでは、全体として今期は前期(H28年7月～9月期)に比べて悪化した。産業別にみると、製造業は△46.8(前期△3.2)で△43.6ポイントの大幅な悪化、建設業は△24.0(前期△20.0)で△4.0ポイント悪化、小売業で△48.8(前期△50.0)と1.2ポイント改善、サービス業で△34.9(前期△27.3)と△7.6ポイント悪化した。

② 採算の状況

採算D Iについても、全体として今期は前期に比べて悪化した。産業別にみると製造業で△35.4(前期△20.0)と△15.4ポイント悪化、建設業で△24.0(前期△20.0)で△4.0ポイント悪化、小売業では△42.9(前期△47.7)で4.8ポイント改善、サービス業では△34.1(前期△24.5)と△9.6ポイント悪化した。

③ 設備投資の状況

新規投資の実施比率は、製造業では12.5%で前期比△10.1ポイント減少、建設業では16.0%で前期比8.0ポイント増加、小売業では9.3%と前期比△2.6ポイント減少、サービス業では15.6%で前期比1.6ポイント増加した。

(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし

① 売上額（完成工事額）

H28年12月調査の日銀短観で、「中小企業の業況判断指数（D I）は前期(9月調査)と比較して製造業が4ポイント改善のプラス1、非製造業は1ポイント改善のプラス2だった。先行きはいずれも悪化を見込んでいる」と発表された。

宮城の今期売上額（完成工事額）D Iは、全業種でマイナス値であった。前期との比較では小売業で改善、製造業で大幅悪化、建設業、サービス業で悪化となった。

今期の宮城の全国、東北との売上額D I比較では、製造業で全国・東北以下、建設業でも全国・東北以下、小売業で全国以下、東北以上、サービス業で全国・東北以下であった。

表－1 売上額（完成工事額）の状況 (前年同期比・D I)

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 20.5	△ 21.2	△ 22.0	△ 25.0	△ 3.2	△ 46.8
建 設 業	△ 15.9	△ 19.1	△ 18.9	△ 20.7	△ 20.0	△ 24.0
小 売 業	△ 39.2	△ 40.1	△ 51.6	△ 53.2	△ 50.0	△ 48.8
サービス業	△ 22.6	△ 26.5	△ 29.7	△ 27.6	△ 27.3	△ 34.9

② 採 算

宮城の今期の採算D Iは、全業種でマイナス値であった。前期との比較では、小売業で改善したが、製造業、建設業、サービス業で悪化した。今期の宮城の全国、東北との採算D I比較では、宮城は全業種で全国・東北以下であった。

表－2 採算の状況 (前年同期比・D I)

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 21.9	△ 21.0	△ 24.1	△ 22.1	△ 20.0	△ 35.4
建 設 業	△ 17.4	△ 18.0	△ 15.2	△ 18.7	△ 20.0	△ 24.0
小 売 業	△ 34.0	△ 36.2	△ 41.1	△ 41.0	△ 47.7	△ 42.9
サービス業	△ 23.9	△ 29.7	△ 28.3	△ 29.8	△ 24.5	△ 34.1

(3) 今後の見通しについて

① 県下産業全般の主要項目来期見通し

宮城の売上額（完成工事額）来期見通しD I（29年1月～3月期）では、今期状況D Iとの比較で、製造業で28.0ポイント改善、建設業で△4.0ポイント悪化、小売業で△2.4ポイント悪化、サービス業で7.6ポイントの改善の見通しとなった。

採算来期見通しD Iでは、今期状況D Iとの比較で、製造業で4.1ポイントの改善、建設業で8.0ポイントの改善、小売業で4.8ポイントの改善、サービス業で△2.2ポイントの悪化見通しとなった。

② 全国と本県企業の来期見通し比較

今期と来期見通しとの比較において、製造業では、売上・採算共に全国・宮城で改善の見通しとなった。建設業では、売上は全国、宮城共に悪化の見通し、採算では全国で若干の悪化、宮城で改善の見通しとなった。小売業では、売上は全国で改善、宮城で悪化見通しとなった。採算は共に改善見通しとなった。サービス業では、売上では全国・宮城とも改善、採算では全国が改善、宮城が悪化の見通しとなった。

表－3 売上額（完成工事額）の状況と見通し（前年同期比・D I）

区分 業種	全 国		宮 城	
	今期状況	来期見通し	今期状況	来期見通し
製造業	△ 21.2	△ 17.3	△ 46.8	△ 18.8
建設業	△ 19.1	△ 20.4	△ 24.0	△ 28.0
小売業	△ 40.1	△ 35.4	△ 48.8	△ 51.2
サービス業	△ 26.5	△ 23.3	△ 34.9	△ 27.3

表－4 採算の状況と見通し（前年同期比・D I）

区分 業種	全 国		宮 城	
	今期状況	来期見通し	今期状況	来期見通し
製造業	△ 21.0	△ 17.9	△ 35.4	△ 31.3
建設業	△ 18.0	△ 18.9	△ 24.0	△ 16.0
小売業	△ 36.2	△ 31.5	△ 42.9	△ 38.1
サービス業	△ 29.7	△ 25.4	△ 34.1	△ 36.3

2. 県下産業別の景況

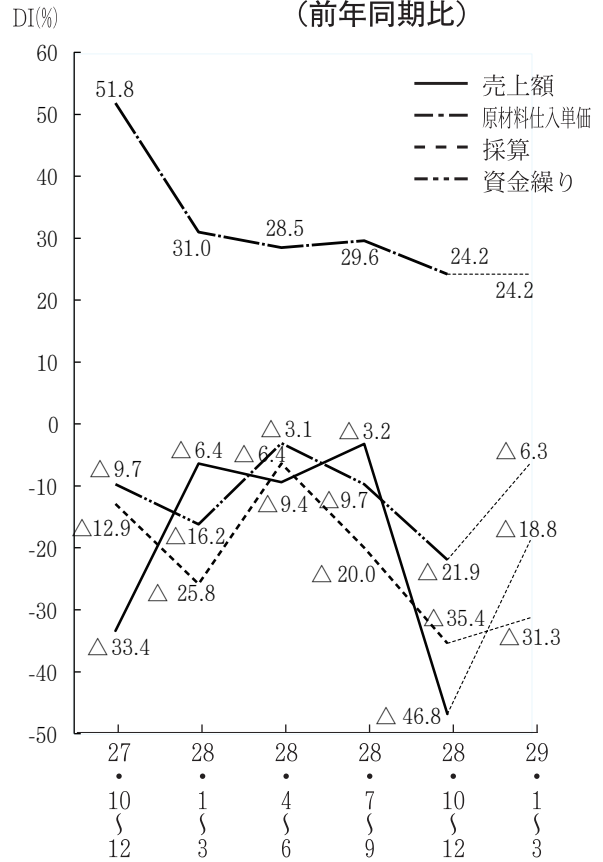
(1) 製造業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

前年同期比D Iは、売上（加工）額D Iが今期△46.8（前期△3.2）となり△43.6ポイント前期より大幅悪化、採算D Iは今期△35.4（前期△20.0）で△15.4ポイントの悪化、資金繰りD Iも今期△21.9（前期△9.7）で△12.2ポイントの悪化となった。

原材料仕入単価は今期 24.2（前期 29.6）と△ 5.4ポイントの改善となった。

図1-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



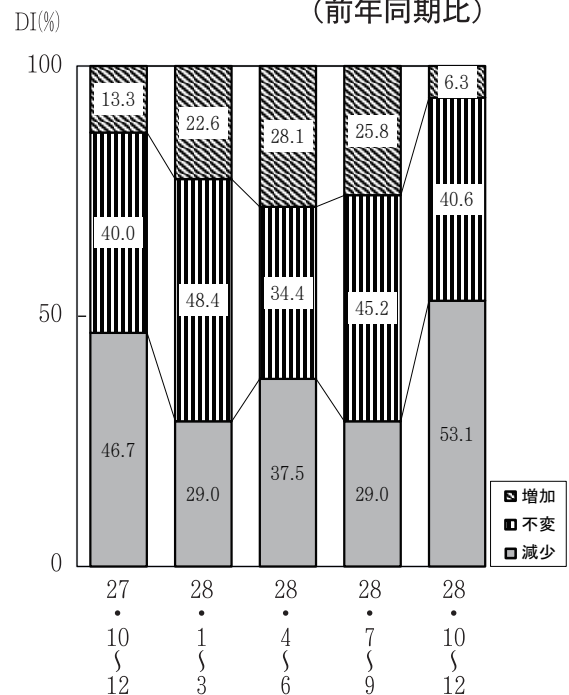
② 主要景況項目別状況

(a) 売上(加工)額

「増加」と回答した企業は、全体の6.3%（前期25.8%）と△19.5ポイント減少し、「減少」と回答した企業は53.1%（前期29.0%）と24.1ポイント増加した。

結果として売上（加工）額D Iは△46.8（前期△3.2）となり前期比△43.6ポイント悪化した。

図1-2 売上（加工）額の状況
(前年同期比)

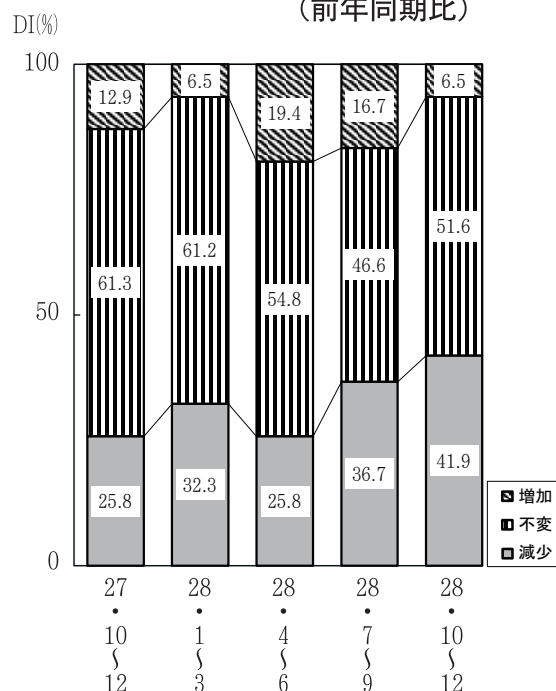


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は全体の6.5%(前期16.7%)で△10.2ポイント減少し、「悪化」と回答した企業は41.9%(前期36.7%)で5.2ポイント増加した。

その結果、採算DIは△35.4(前期△20.0)で前期比△15.4ポイント悪化した。

図1-3 採算の状況
(前年同期比)



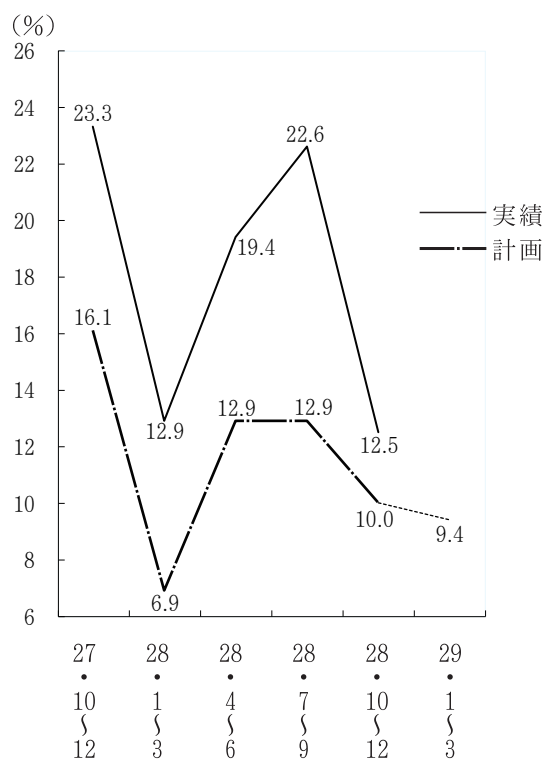
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施(実績)企業割合は、全体の12.5%(前期22.6%)で前期と比べ△10.1ポイント減少した。

その設備内容は、工場建物、生産設備、車両・運搬具、OA機器、その他であった。

来期に設備投資を計画している企業は全体の9.4%で、その設備内容は生産設備となっている。

図1-4 設備投資の状況

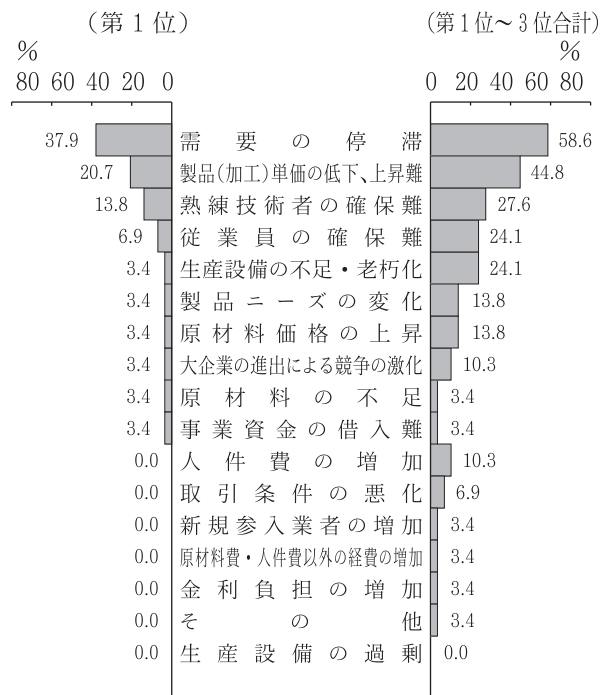


(d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は「需要の停滞」の37.9%で、次いで「製品(加工)単価の低下、上昇難」が20.7%、「熟練技術者の確保難」が13.8%で続いた。

重要度第1位から第3位合計でも「需要の停滞」が58.6%(複数回答計、以下同じ)で最上位、「製品(加工)単価の低下、上昇難」が44.8%、「熟練技術者の確保難」が27.6%で続いた。

図1-5 経営上の問題点



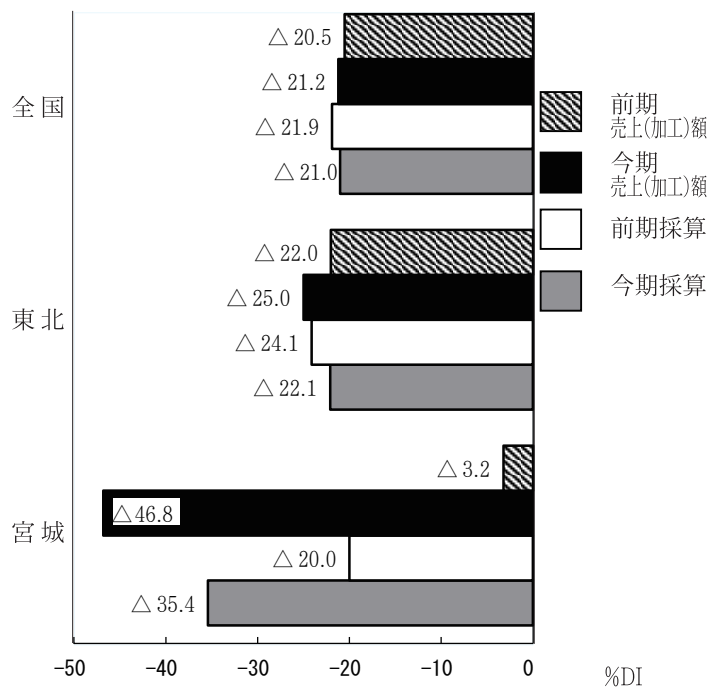
③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期の比較では売上(加工)額DIでは全国で若干の悪化、東北で悪化、宮城で大幅な悪化となった。

採算DIの比較では、全国で若干の改善、東北で改善、宮城で悪化となった。

本県回答事業者からは「全国水産物の不漁により、原料不足、仕入価格上昇」(水産加工業)や、「設備の老朽化に伴い、設備投資を検討」(印刷業)などのコメントがあった。

図1-6 全国東北宮城売上(加工)額・採算比較(前年同期比)



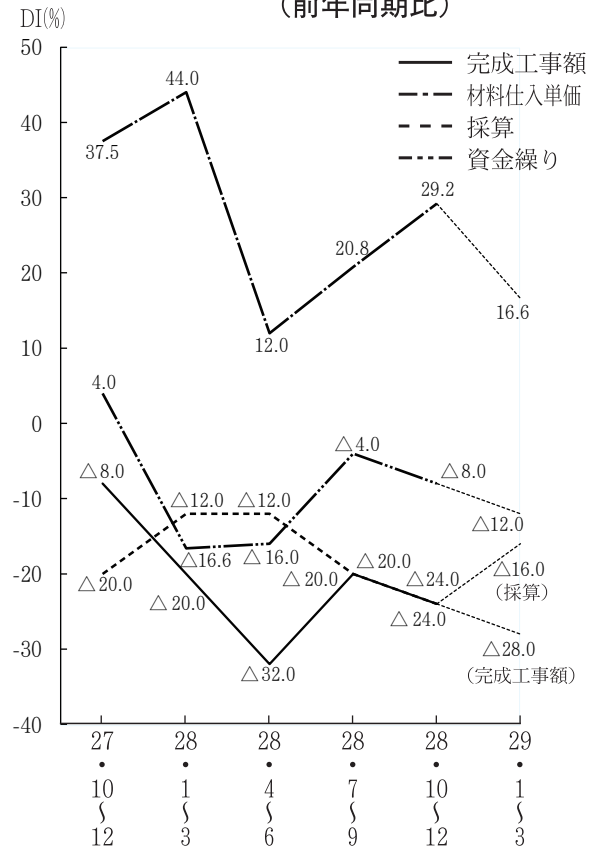
(2) 建設業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

完成工事（請負工事）額D Iは今期△24.0（前期△20.0）と前期より△4.0ポイント悪化、採算D Iは今期△24.0（前期△20.0）で△4.0ポイント悪化、資金繰りD Iも今期△8.0（前期△4.0）と△4.0ポイント悪化した。

材料仕入単価D Iは今期 29.2（前期 20.8）と前期より 8.4 ポイント上昇した。

図 2 - 1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



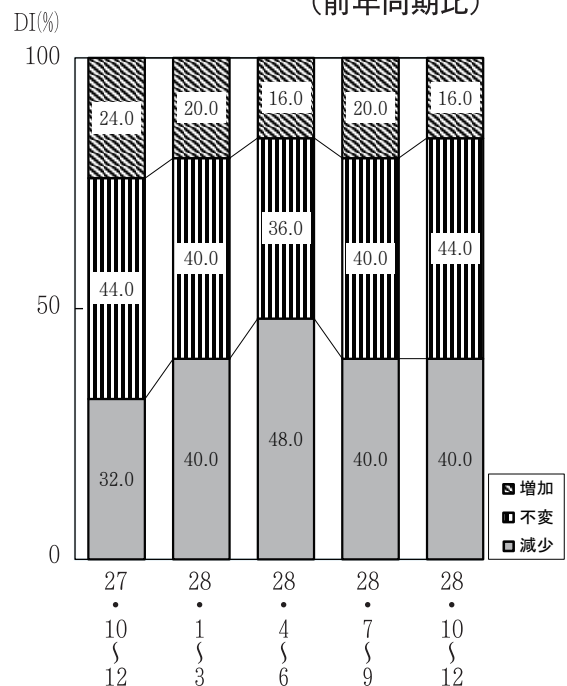
② 主要景況項目別状況

(a) 完成工事（請負工事）額

「増加」と回答した企業は全体の 16.0%（前期 20.0%）で△4.0ポイント減少、「減少」と回答した企業は 40.0%（前期 40.0%）と横ばいであった。

その結果、完成工事（請負工事）額D Iは△24.0（前期△20.0）と△4.0ポイント前期より悪化した。

図 2 - 2 完成工事額の状況
(前年同期比)

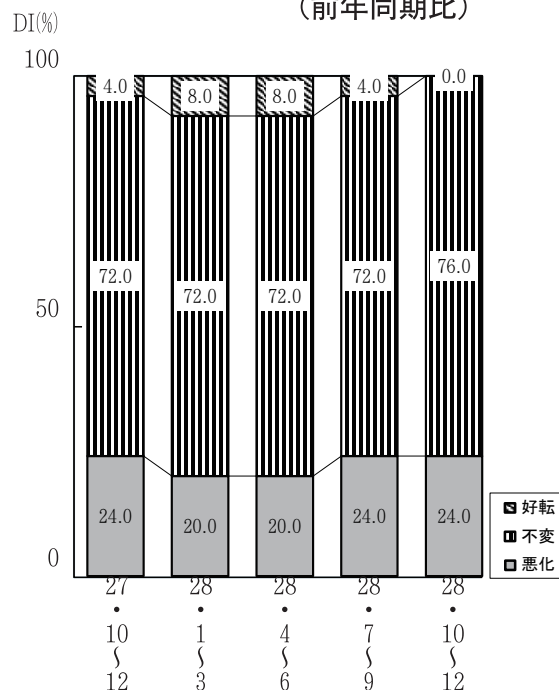


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は全体の 0.0% (前期 4.0%) で△4.0 ポイント減少、「悪化」と回答した企業は全体の 24.0% (前期 24.0%) で横ばいであった。

その結果、採算DIは△24.0 (前期△20.0) と△4.0 ポイント悪化した。

図 2 - 3 採算の状況
(前年同期比)



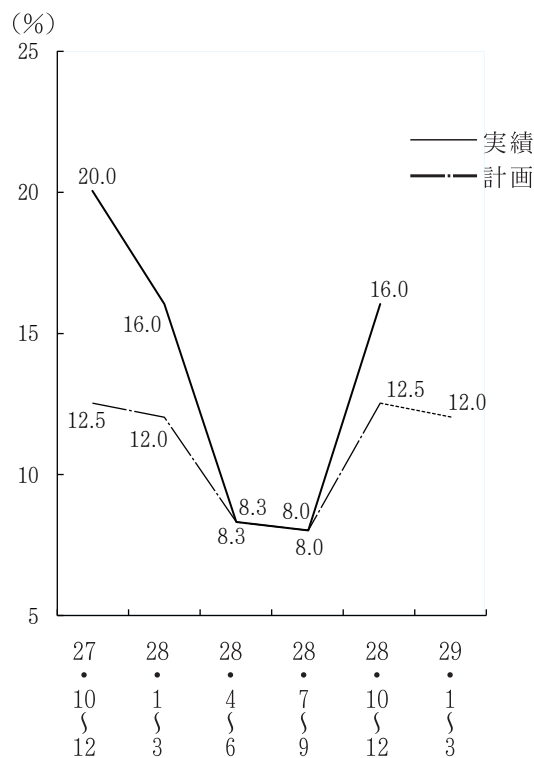
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施（実績）企業割合は、全体の 16.0% (前期 8.0%) で前期より 8.0 ポイント増加した。

その設備内容は車両・運搬具であった。

来期に設備投資を計画している企業は、全体の 12.0% で、その設備内容は、工場建物、生産設備、車両・運搬具、OA機器となっている。

図 2 - 4 設備投資の状況

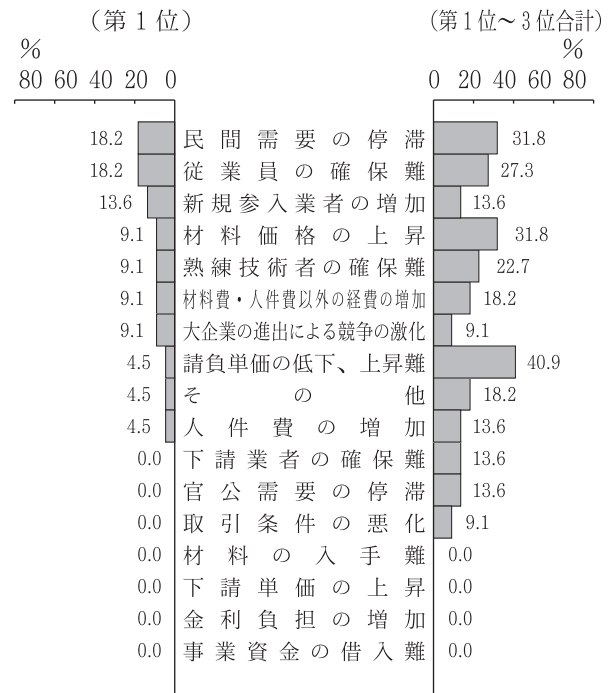


(d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は「民間需要の停滞」と「従業員の確保難」が同率18.2%で、次いで「新規参入業者の増加」が13.6%であった。

重要度第1位から第3位合計では、最上位が「請負単価の低下、上昇難」で40.9%(複数回答計、以下同じ)、次いで「民間需要の停滞」と「材料価格の上昇」が同率31.8%で続いた。

図2-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期との比較では、売上額DIは全区分で悪化した。

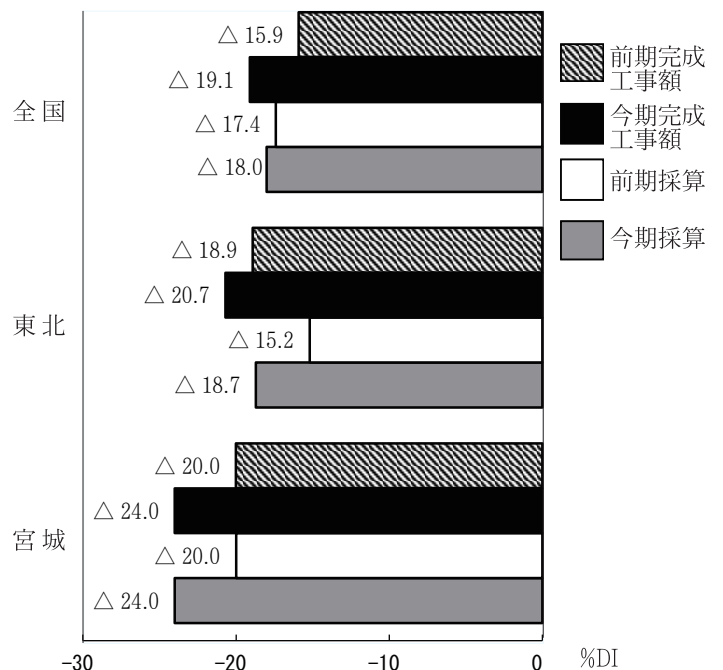
その悪化度は宮城、全国、東北の順であった。

採算DIの比較では、全国で若干の悪化、東北、宮城で悪化した。

悪化度は宮城、東北の順であった。

本県回答事業所からは「住宅着工の減少に伴い、受注額が減少し始めている」や、「事業主が高齢となり健康不安がある」などのコメントが寄せられた。

図2-6 全国東北宮城売上完成工事額・採算比較(前年同期比)



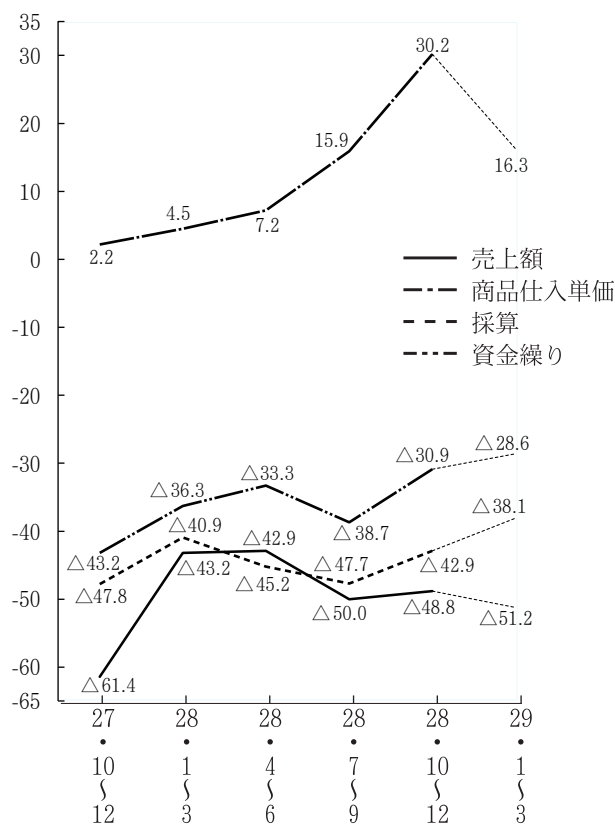
(3) 小売業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上額D Iは今期△48.8（前期△50.0）と前期に比べ1.2ポイントの改善、採算D Iも今期△42.9（前期△47.7）で4.8ポイント改善、資金繰りD Iも今期△30.9（前期△38.7）で7.8ポイント改善した。

商品仕入単価D Iは今期 30.2（前期 15.9）となり 14.3ポイント上昇した。

図3-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



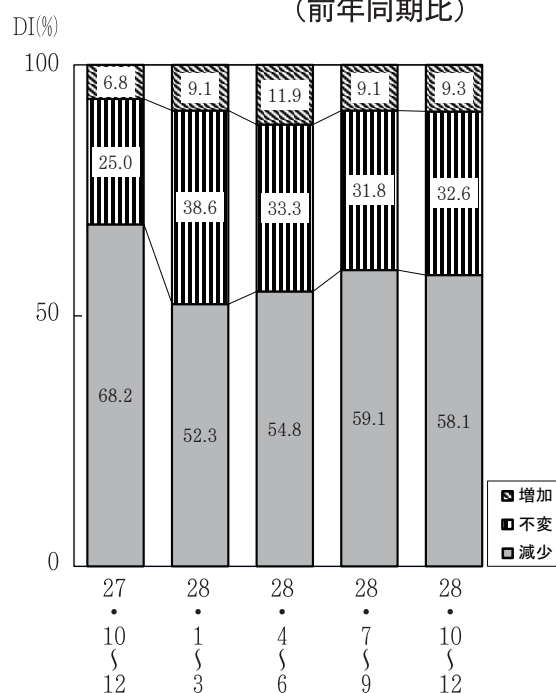
② 主要景況項目別状況

(a) 売上額

「増加」と回答した企業は、今期は全体の9.3%（前期9.1%）と0.2ポイント増加、「減少」の回答は、今期は全体の58.1%（前期59.1%）で△1.0ポイント減少した。

その結果、売上額D Iは今期△48.8（前期△50.0）と1.2ポイント前期より改善した。

図3-2 売上額の状況
(前年同期比)

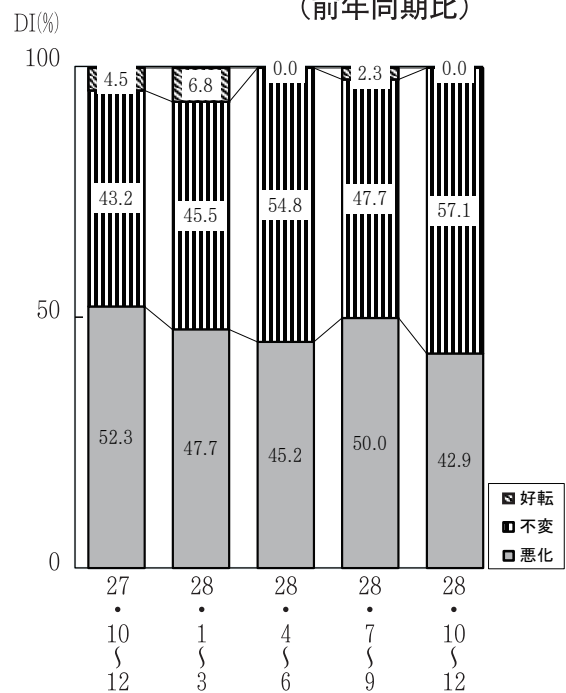


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は、今期は全体の0.0%（前期 2.3%）と△2.3ポイント減少、「悪化」の回答も、今期は全体の42.9%（前期 50.0%）で△7.1ポイント減少した。

その結果、採算DIは、今期△42.9（前期△47.7）で前期より4.8ポイント改善した。

図 3 - 3 採算の状況
(前年同期比)



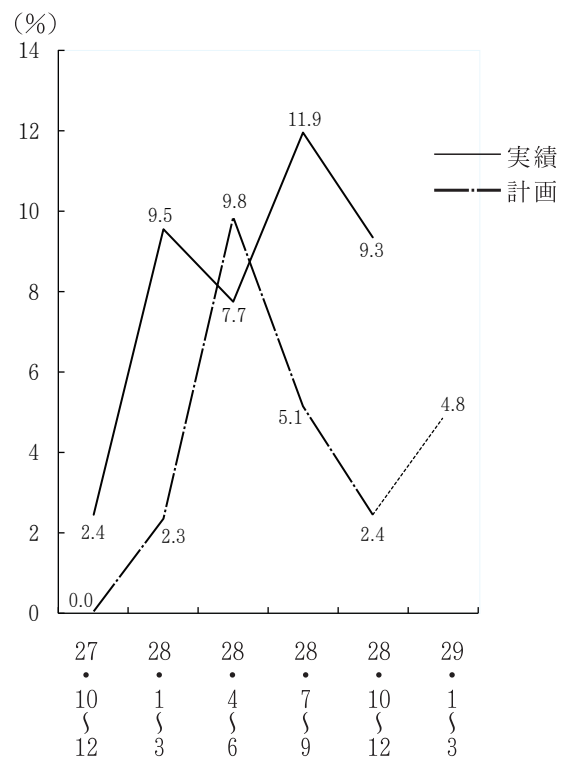
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施（実績）企業割合は、今期は全体の9.3%（前期 11.9%）で、前期より△2.6ポイント減少した。

その設備内容は店舗、販売設備、車両・運搬具、OA機器であった。

来期に設備計画している企業は全体の4.8%で、その設備内容は付帯施設、OA機器となっている。

図 3 - 4 設備投資の状況

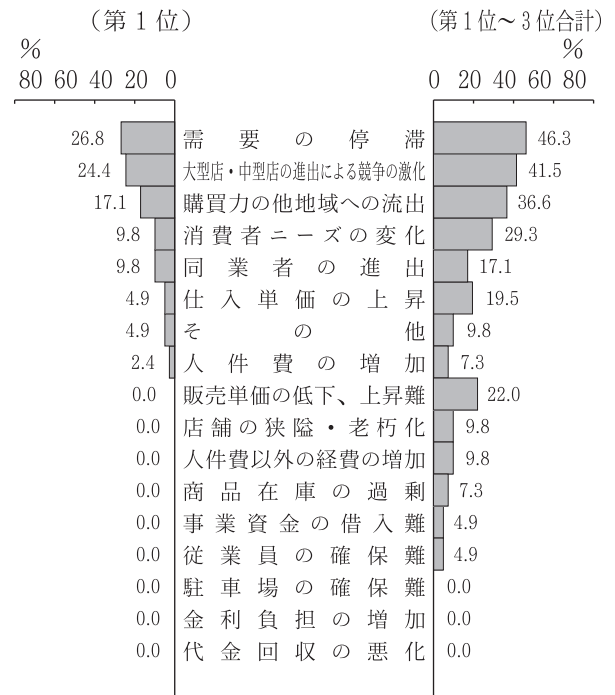


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「需要の停滞」が26.8%で、次いで「大型店・中型店の進出による競争の激化」が24.4%、「購買力の他地域への流出」が17.1%で続いた。

重要度第1位から第3位合計でも、「需要の停滞」(46.3%(複数回答合計、以下同じ))が最上位で、「大型店・中型店の進出による競争の激化」が41.5%、「購買力の他地域への流出」36.6%で続いた。

図3-5 経営上の問題点



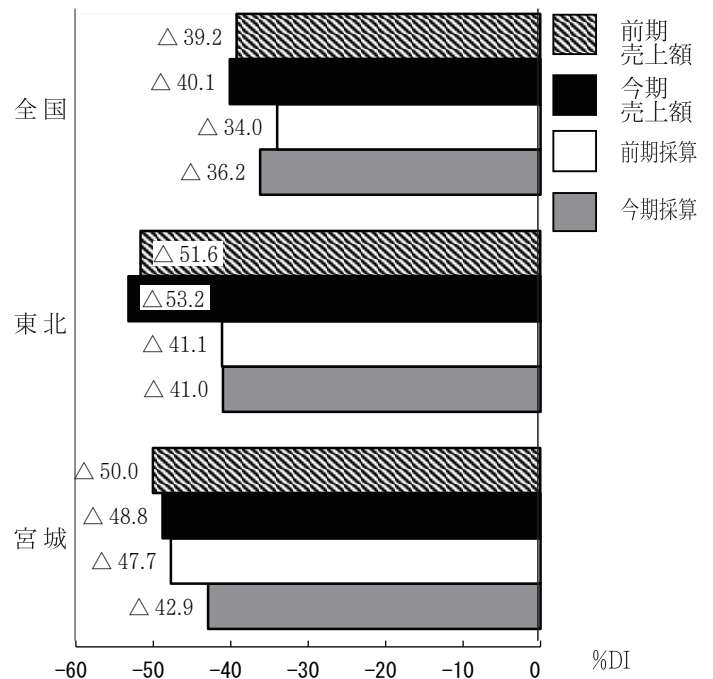
③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期の比較では、売上DIは全国で若干の悪化、東北で悪化、宮城で改善となった。

採算DIでは、全国で悪化、東北で若干の改善、宮城で改善となった。

本県回答事業所から「外販をして売り上げを伸ばした。今後も何か考えながら仕事をしたい」(衣料品販売)、「客数を増やすことは困難、客単価を上げることが大事」(靴販売)などのコメントが寄せられた。

図3-6 全国東北宮城売上額・採算比較(前年同期比)



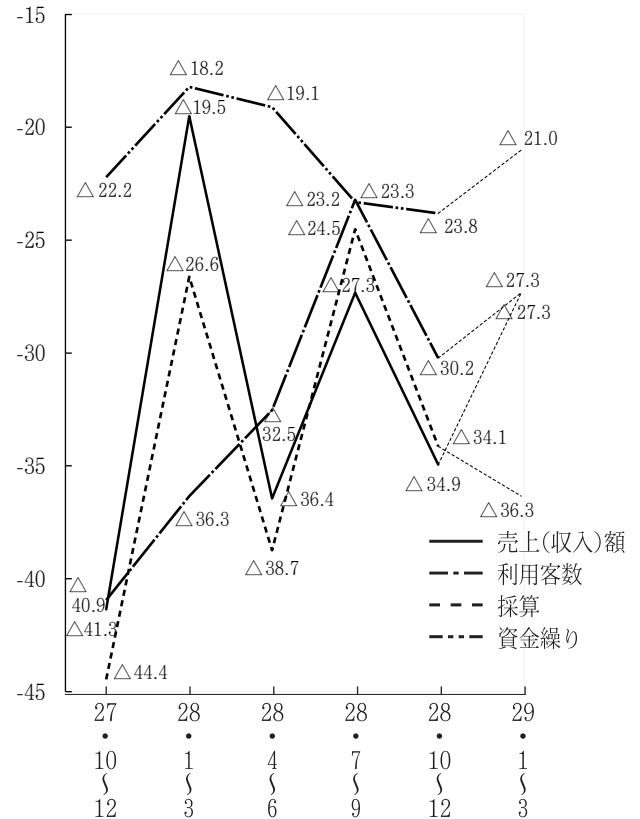
(4) サービス業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上（収入）額D Iは今期△34.9（前期△27.3）で△7.6ポイント悪化、採算D Iも今期△34.1（前期△24.5）で△9.6ポイント悪化、資金繰りD Iも今期△23.8（前期△23.3）と△0.5ポイント悪化した。

利用客数D Iは今期△30.2（前期△23.2）で△7.0ポイント減少した。

図4-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



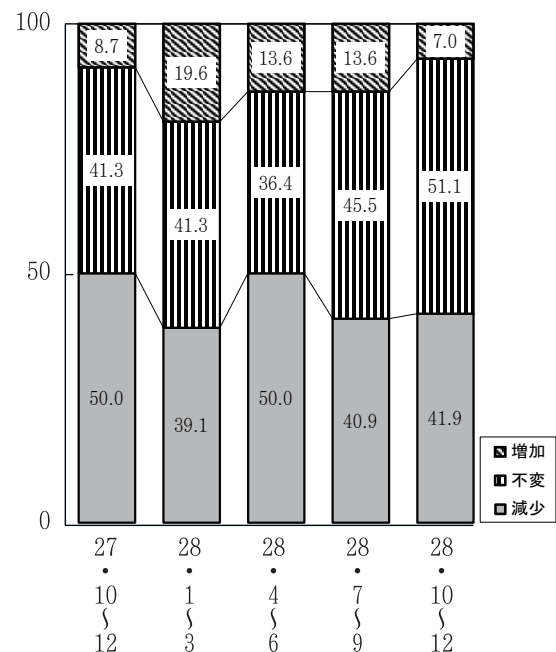
② 主要景況項目別状況

(a) 売上（収入）額

「増加」と回答した企業は、今期は全体の7.0%（前期13.6%）で△6.6ポイント減少、「減少」の回答は今期41.9%（前期40.9%）で1.0ポイント増加した。

その結果、売上（収入）額D Iは今期△34.9（前期△27.3）で前期より△7.6ポイント悪化した。

図4-2 売上（収入）額の状況
(前年同期比)

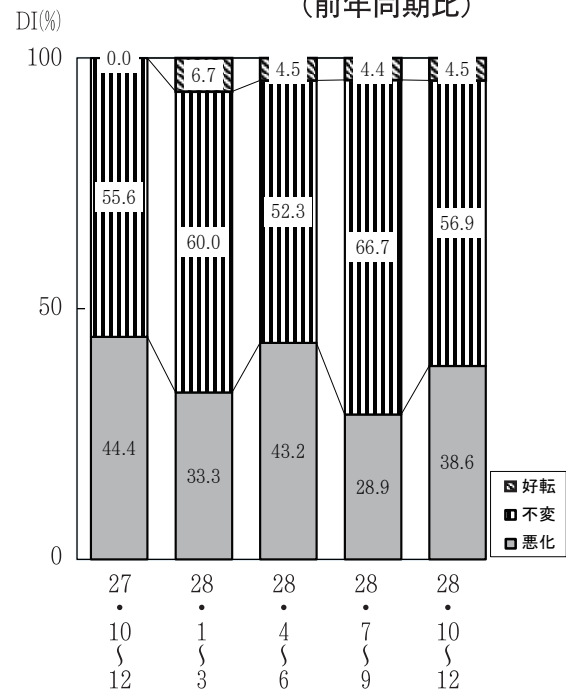


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は、今期は全体の4.5%（前期4.4%）で前期比0.1ポイント増加、「悪化」と回答した企業は今期38.6%（前期28.9%）と9.7ポイント増加した。

その結果、採算DIは今期△34.1（前期△24.5）で前期より△9.6ポイント悪化した。

図4-3 採算の状況
(前年同期比)



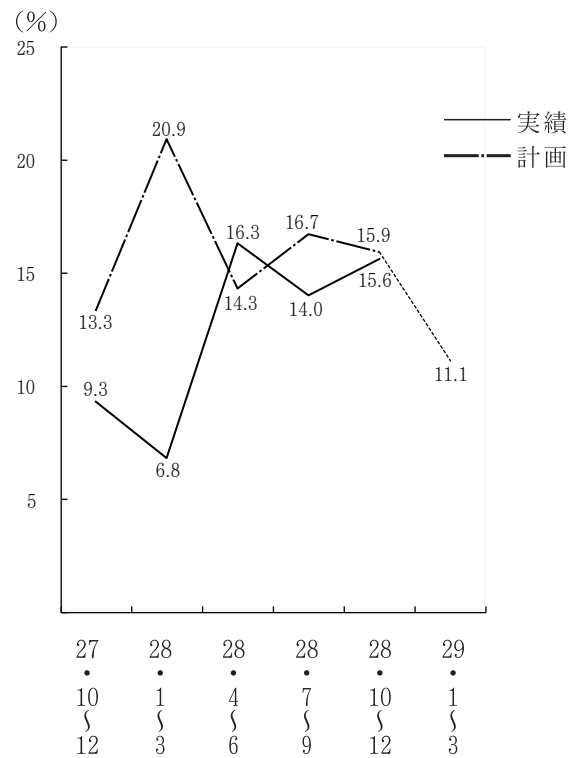
(c) 設 備 投 資

今期新規投資を実施（実績）した企業は、今期は全体の15.6%（前期14.0%）で前期より1.6ポイント増加した。

その設備内容は、建物、サービス、車両・運搬具、付帯施設、福利厚生施設、その他であった。

来期に設備計画している企業割合は全体の11.1%であり、その内容は、土地、建物、サービス、車両・運搬具、付帯施設、OA機器、福利厚生施設、その他となっている。

図4-4 設備投資の状況

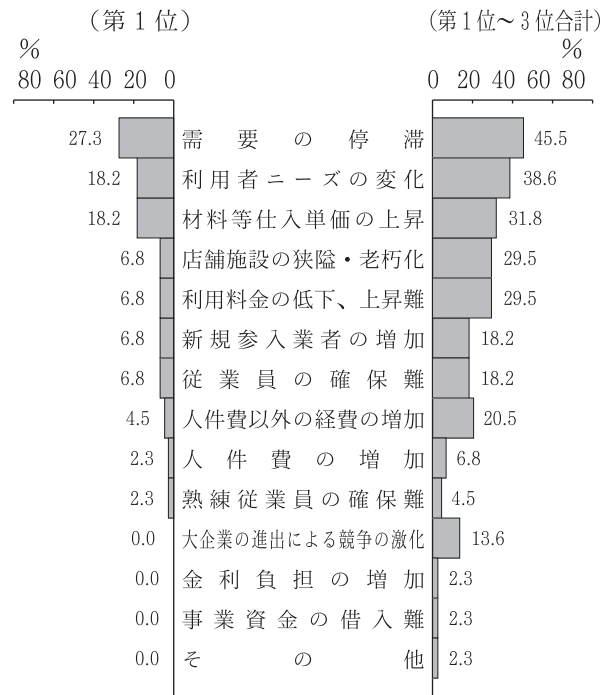


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は、「需要の停滞」(27.3%)で、「利用者ニーズの変化」と「材料等仕入単価の上昇」が同率18.2%で続いた。

重要度第1位から第3位合計でも、「需要の停滞」(45.5%(複数回答合計、以下同じ))が最上位で、「利用者ニーズの変化」が38.6%、「材料等仕入単価の上昇」が31.8%で続いた。

図4-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

前期と今期の比較において、売上DIは全国で悪化、東北で改善、宮城で悪化となった。

悪化度は宮城、全国の順であった。

採算DIでは全区分で悪化した。

悪化度は宮城、全国、東北の順であった。

本県回答事業所からは「新たに席数を増やしたこと、宣伝パンフレットを作成したことで客数が増加」(喫茶業)とのコメントや、「景況が不安定のなかでも、老朽化に伴い店舗を改装、一步一步頑張っていく」(飲食業)などのコメントが寄せられた。

図4-6 全国東北宮城売上(収入)額・採算比較(前年同期比)

